

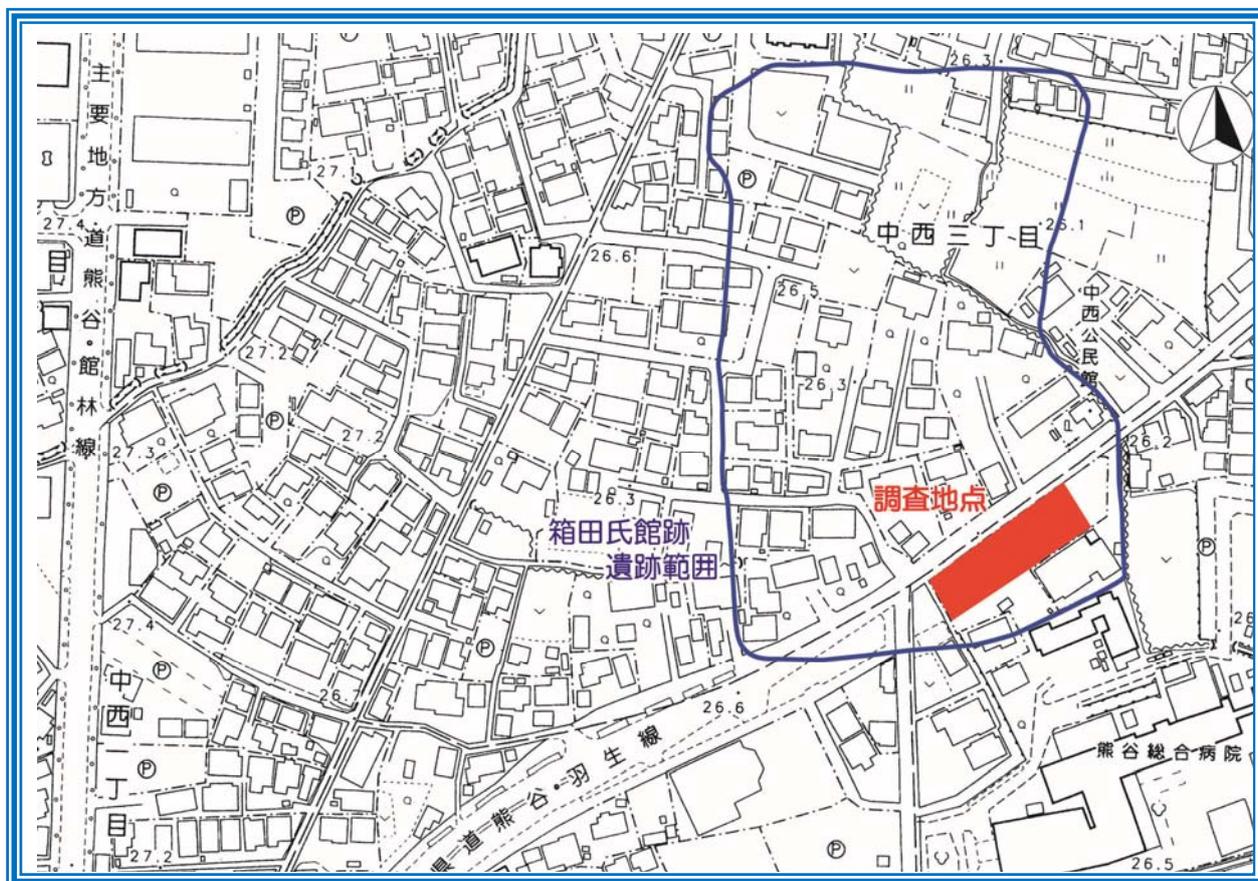
わが街熊谷遺跡めぐり 箱田氏館跡

1 はじめに

箱田氏館跡は、熊谷市中西四丁目周辺の荒川扇状地上に所在する、縄文時代後期から平安時代末期にかけての複合遺跡です。

南側には東西方向へ流れる衣川があり、遺跡はその自然堤防上に形成されていると考えられます。東側には前中西遺跡が隣接し、さらに東には諏訪木遺跡、藤之宮遺跡、上之古墳群、池上遺跡などが所在し、遺跡が密集している地域であることが判明しています。

本遺跡は遺跡密集地域の北西エリアに位置しています。平成8年度からの上之土地区画整理事業により発掘調査が行われていますが、次々と新たな発見があり、縄文時代の集落を初めとして、弥生時代から江戸時代までの生活の痕跡が確認され、現在に至るまでに人々が継続的に住み着いていたことが分かってきました。特に弥生時代については大きな成果が挙がっています。



第1図 箱田氏館跡位置図

2 箱田氏館跡の調査

今回の調査は、道路建設計画による発掘調査として平成23年1月から実施しました。

主な遺構として、縄文時代後・晩期の遺物包含層と竪穴建物跡、弥生時代中～後期の方形周溝墓、古墳時代前期の前方後方形周溝墓等が確認されています。

出土遺物は、縄文時代後・晩期については、加曾利B3式、後期安行式、曾谷・高井東式等の縄文土器、複数の土偶・耳飾等の土製品、石剣・石棒・砥石等の石製品を含め、大量に出土しています。弥生時代については、方形周溝墓に関係すると思われる弥生土器が出土しています。古墳時代の前方後方形周溝墓からは、壺・埴等の土師器、鋤・鍬等の木製品をそれぞれまとまった状況で検出しています。

3 方形周溝墓とは

方形周溝墓とは、弥生時代からみられるお墓で、地域の有力者が葬られたものと考えられます。一般的な形状は、主体部（埋葬箇所）を中心として四方に溝を配置して方形に区画し、区画内には盛土による塚（方台部）があります。四方の溝は、つながらないもの・一部だけ橋状につながるもの・全てつながるものなどのパターンがあります。塚は削平され、見つからない場合がほとんどです。方形周溝墓は密集して発見されることから、墓域という概念があったことがうかがえます。

今回の発掘調査では、前方後方形と呼ばれる珍しい形状の方形周溝墓が発見されました。市内で初めての検出となり、地理的にみても荒川扇状地における初見となります。埼玉県内でも検出例は少なく、深谷市（旧岡部町）石蒔B遺跡、美里町南志渡川遺跡・塚本山古墳群・村後遺跡、吉見町三ノ耕地遺跡等で確認されています。形状は前方後方墳によく似ており、古墳の発生を考える上で数少ない貴重な資料といえます。



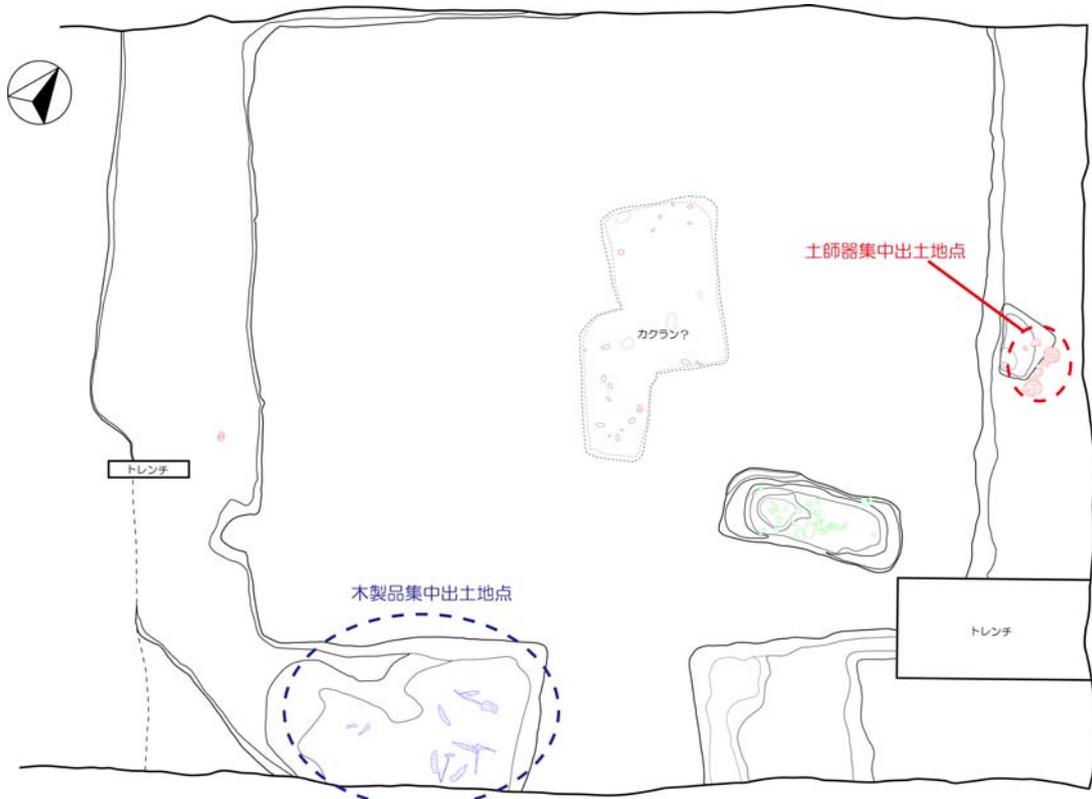
第2図 前方後方形周溝墓全景（人は1m間隔で整列）

4 前方後方形周溝墓について

前方部、後方部（13×13m）及び周溝（3m）が検出され、後方部の中心は攪乱をされた可能性があります。東南から主体部らしき長方形の土壌がみつかりました。塚はほぼ削平されています。周溝は前方部の両脇が深く掘削されており、前方部を造りだす意図が強く感じられます。また、東側周溝から壺・埴などの土師器4点、西南側周溝からは鋤・鍬などの木製品を検出しました。



第3図 概略図



第4図 前方後方形周溝墓平面図（縮尺は任意）



第5図 木製品集中出土状況



第6図 土器集中出土状況

5 出土土器



土師器 壺



土師器 壺



土師器 小型丸底壺



土師器 甕 (S字口縁)

平成23年11月30日発行

熊谷市立江南文化財センター(熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係)

— わが街熊谷遺跡めぐり — 箱田氏館跡 テーマ展解説書 第10集